



始



93
116
7/2



蟹
風毛鶴
さゑ枝
國愛宏郡
大安
見の里
大宮

入れ

元ニ
ワキ

一
あらわし
むすめ
植

タヒラ
ヨリ

アシジン
オホ

アシジン
オホ

人垂れ

人垂れ

シテ 天太玉命

ワキ 勅使

大紅山

シテ

酒呑童子

ワキ

鬼

ワキ

赤

徒者山代

酒呑童子侍女

空船

シテ 竜神

ワキ 勅使

知章

シテ 竜神

ワキ 勅使

俊欣忠度

シテ 知男

章

ワキ 俊成師

周易六經太

俊成師

蒙り。唯今。外見ふ下向は。作
 陰ふ。揺る。て。風も。嘯く。と。らの時。
 ポ。音。を。も。待て。ゆ。限。ら。す。
 や。國。あ。れ。全。ら。だ。の。万。代。り。
 上。地。出。端。上。テ。守。る。時。
 限。ら。ド。あ。の。防。か。う。守。り。う。き。タ。
 ゆ。守。り。う。き。タ。

重く。ちよ。神。と。君。君。おまく。も。う。べ。ス
 や。廟。も。准。り。が。れ。の。神。祭。光。
 す。も。み。ら。き。ふ。や。え。し。四。海。と。君。君。
 め。内。室。ア。ら。く。よ。久。よ。や。君。君。
 究。魔。降。体。乃。ま。か。の。身。か。の。月。弓。松。又。
 ひ。だ。ふ。角。を。廻。あ。い。ア。ら。ぶ。る。神。も。

まらのひもろま上角
 其神院下角
 不良も亦モ祥力志思魔と附元
 ひ清めが元あまえ人元脇元内部元
 ちちあり元逆治元すれ元國元あれば元
 中元あきや君元舟元の水元ほ元
 も元ぞうふ元ま元わ元か元うれ元東元夷元
 酔元南元蠻元か元然元か元き元あ元き元れ元が元

と元も元く元劍元を元鉾元め元君元も元も元原元
 み元民元を元守元り元れ元き元宮元よ元行元う元た元
 ま元が元か元あ元防元わ元う元い元難元處元景元け元が元
 し元お元う元も元す元す元れ元の元跡元よ元御元代元
 と元ぞ元取元ふ元き元ま元う元

六江山

翠巒^{モミジ}秋風^{ウラジロ}音^{カタ}よたぐべて西河^{シガ}や雲^{クモ}もり
ちり^リの山^{マツ}松^{マツ}見^ミる處^{カニ}の賴^{ヨリ}をと
翁^{カミ}梅^メもは度丹波^{タガ}國^{クニ}かの山^ヒ比^ヒ
男^キ翁^{カミ}の車^カ影^{カタ}あみあと塗^{ムカ}よぼ^テつて
老^{シワ}を保昌^{モハラ}よに付^{シタ}らむよりまくわ^マ
さ申^スす。後^ホ大樂^{オホヤ}有^リても人倫^{ヒンリュウ}か

らぬは生れより行をもちひよせ
が手ぞ わよみ細ひひそて山伏
のもぐり出立く
ひがとま よかひふあらぬむかきを
やおきよ歎もる爲もあり
の頼え保昌 さざめきり
をいたし細公時 まことひける

御者ウシロ、
まづうちのうちハサク、
ゆく行ハシム、
はきうきら仰ハタフ、
鬼オニ、
ありと大君ヒメノミコト、
ありと大君ヒメノミコト、
山ヤマよ

有^リ童^子とすがゆうりあひぞ
山^{アカシ}做^モちか所^ハ入^ルが、あつも宿^とあらせ
死^キ作^ハ行^ハと山伏^ハ夜^ハお宿^シ
やがやうらりや植^シ木^をよ御^シ篠^シ
申^シ我^は山^{アカシ}と出^ハたり。出^ハ家^を手^を
を^ハじ^トと^ハい^テ持^セ物^をき^ナり。中^ニ
門^ノ入^ルは廊^下と^ハまよ^ハまよて宿^シ

僧^寺行^ハあり^ハま^ハ所^通り作^ハべ
げ隠^シ家^の内^シひづく^ハと^ハお^ハ作^ハ
是^ハの能^シ當^シ山^{アカシ}の害^シき^ハが難^シ
き^ハ松^{マツ}木^のだ^ハより通^ハよ^ハ踏^ミま^ハし^ハ前^ハ
はと^ハた^ハ木^のは^ハ風^よど^ハ霄^れれ^ハれ
や^ハ行^ハま^ハ高^シと^ハお^ハ急^シ申^ハ候^ハる^ハと
曾^シ重^シと^ハ作^ハ行^ハと申^ハた^ハる^ハ渭^シ

伏ぞ、秋色を酒呑童子とあひて
の言葉と移寄つてあり。まんざくだ
よぬ音をさすとよもれよざきばはる
凡うむと聞よつまくも。酒屋と面白も
よりあへ。官傭をもたらすときく
伝ふて紙よし下されべ。よし山
をばらのけはすりけ御君ゆくゆく

我と観の山と重代の往くと。年
月とまづよ。大所坊とよえを人
嶺よし根原中壹とたて。穂尾よ七社
の靈神をいもし。美琴ひ一安よ三
十石の楠とあひて。奇鳥と名せり
廻よ大所坊一首れすよ。阿緯多羅
三藐二苦摸入候す。我まのねよ

冥ミヤカかあらをアラと有アリ。竹チクももむか
拂ハラフよからうすれスル。よくとヨクとヨクあひアヒ。がち
うらあくアカルて、重タメラい。比數ヒスケれルと出
きありアリ。傍ヨシガルは數ヒスケ山ヤマをヲ御ミテ方カタ。其
まマまマに度タメ有アリ。かカりや行くカムも
定タマめタマある。震カスカ。まマすマスれ雲クモ。アリ
北キタ方カタ。あアまアマぎアギ。鄙ハセ。あアづアヅちチ。遠アリ

田舎アシカ。御ミテササれル古コキと弱カス隠カモ。とトも
凡オホく作ハセ也ル。梅メイの袖スリらル。天下アメニほホま
がガくガれガ見ミたタ。ぬヌまマ。小コトハ行カムの道シテよ
行カム脚シテ。あアるルひヒまマた山ヤマ。徧シテ看カムだ
たタとト。早アリ立タテ富タチ士ジ。巒ケ。シテ。向カム
室ムロの自ジ房ボウ。雲クモの通スル路ル。あアく
移シテ。移シテ。よヨひヒく。旅リのあアづアヅり。往カム

おも、此處へ出でて竜居へ
くの浦住居へかまきをすて
かよ、而よ今宮僧達は又あらまれ
や。通がと生えまゐるあり、はる易く
黒苔を。不^ト旅もすり有ます。
く一筋よ頼みすぞ一樹の陰
み流せとゆふとおひながれ意懇

力行^{シテ}人^トたもくあれ深^{ワキ}、
きとより也家^{シテ}うち^{シテ}童子もあも
がよそぞう^{ワキ}水^{モト}童^{モト}の事^{モト}あひべ
あひてえ給^ハ神^トだふも^ハ鬼^ト二山王^ト
たくちも^ハか神^トひきゆうす^ハぞか
鷹^ト宮僧^ト童^ト放^ハおもせばをど
かあれ^ハかまくら^ハかまくら^ハ金^トもて

わざりせよ。あはれ。奥の原
の塚よ。かゝる。馬の糞きりよ。
わざり。城なり。もしくとく。大山
く野乃通。我ま。天より。だく。
大山の天狗も。神よ。まづよ。
めゆきよ。だく。御のまづよ。
あく。おまか。行くぞ。こうしも。

秋の草。桔梗。うかやわ。秋の草。
よき行。やらし。秋のよき。まと。行。づき。
名も。よそ。下へ。まゆ。舟後舟波。
の壇。ちる。界。や。城。も。行。く。頼。も。
ばく。聲。その。圓。も。我。界。や。初。か。
そよが。耳。き。絶。も。我。よ。あ。き。絶。

も、氣うる友と思ふを。元、そのひだ
は、暮らも況よ。ノア、
てつや、山。松、あくさく、
だ、さま、さき、が、叶はる、よゑ、里、
や、見、ゆす、う。た、よ、ゆう、だ、よ、す、雲、
物、聲て、其、ま、く、同、よ、乃、え、あ、累、の、ま、う、
入、薙、馬、ア、事、う、ド、村、壁、く、ある、か

ト、入、よ、り、く、中、入、
ま、方、れ、ま、ち、ほ、闇、見、^{シカク}、
び、ら、と、押、ら、ま、^シ、
ま、ざ、り、ぐ、へ、か、ま、と、^シ、
左、を、二、ま、う、り、ち、^シ、
詠、あ、れ、る、だ、み、え、い、^シ、
ま、ま、よ、き、^シ、
も、う、き、^シ、
た、ず、れ、薙、^シ、
た、す、り、^シ

あれども。命は君のまゝよ。林國氏
社南無や。鷲山王權現。やら。力が
きそ。と。頼。え。保昌。洞公時。あ。ご
あり。お。な。き。ひ。り。せ。ん。や。心。と。ひ。り。
み。そ。あ。ぐ。ろ。み。す。た。る。罪。の。う。へ。す。
ば。え。え。と。と。り。ぐ。る。き。う。り。ば。き。縮。妻。震。
が。う。一。動。あ。び。て。一。情。あ。く。ま。宮。僧。達。

い。か。り。あ。ら。と。あ。つ。る。鬼。神。よ。横。道。
す。キ。わ。や。行。鬼。神。よ。横。道。あ。と。や
中。入。り。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。
の。ば。ま。地。よ。も。起。く。人。と。と。り。せ。れ。あ
ま。で。と。成。け。る。ぞ。并。ば。音。や。モ。岡
修。ら。保。昌。う。た。ち。に。独。り。お。お。れ。よ。お
お。り。を。離。ま。离。す。お。そ。そ。そ。そ。そ。そ。そ。

まば。カルミス、木も林ス大君スもちれスぞ
いぐく鬼ス宿ト城スらん御ス馬スから
もあせや責スよ人スとスも青スま
木震動スてス切カりス山ス草ス
すあこスたス日ス金ス庫ス里ス照スや
まくスさスのスうよスとスむくスき板ス

すあす。サト頼光保昌ハシマニすりも
羅ラ林ス城スもスちもざり三ミ年スか
みスいスをスまスとスのスもスとスんで
えスいスとスのスをスなスかス頼光ハシマニ
おスくスをスまスれス鬼ス一ミ口スくスとスす
おスびスるスのスをスりスがスあス抜ス

二年
刀三刀引トドリトドリとほりホリカマキアとち
からまえいやカラマエイヤトカミトカミモレモモレモススの墨
糸スジを押タマシつあらわす首ハラハラとト打タマシれ
おの山オノサン跡ヤツ踏タマシみミ都ツル見ミ
こうがつりコウガツリとトき

羅上

岩船

刻ウニクる石イシを四方シラタケの國クニ開ハラハラの戸ド
りトでかすカスさんサン桺シラカシ曼マン當ダウふ
仕ハサウエ下ト也タねネをヲ君ヒメ賀カ王ウ
すスまマよりヨリ城シマ風枝ブシマをヲあらそソび
民ミン戸ト下ト也タ城シマ小コ目メ度ト井イ
もモよヨうウる損シム利リ住スル吉ヨシ浦マツよヨ和ハ

候の事とアド。あま唐もん實と賣
タリ。と宣旨。又せ。ロス。律の
國住吉浦。下向仕官。今
とても御付。ちうひき。ぬ
き。とて。神と君との清惠。深成。
清り。方難。や。早苗。神是下界
よもよて。神と。や。ひ。君と。守

孫。律。孫。竜神也。あるひ。か
社代。うき。しどう。く。守護
降。す。寶。乃。い。み。と。守護。
事。上。元。下。元。ス。ス。ス。ス。
寶。ヤ。ス。ス。ス。ス。ス。ス。ス。
事。ヤ。ス。ス。ス。ス。ス。ス。ス。
てえ。いや。いや。ヤ。ス。ス。ス。ス。
ま。うち。あ。き。波。の。腰。鼓。ヤ。ス。ス。ス。

どうぞ相子を。おあいやかに。狂浪
魚あざり。廻りて。往言のねれ。朝
吹すよえしさ。えひそらえし。とお
もやまらふ。湖入満く。浪ふ
うんで。大竜王。海上よおれ。
は母の。あざを。手ふく。うちまた
塩ふ。引き波。よの川。て。おが。店も。目

少度。往言の。肩よ。實の。は。身とづき
と。ナ。め。教。も。教。方。の。技。物。あ。び。出
も。や。あ。う。志。が。人。宣。銀。殊。玉。の。娘
ア。ミ。ち。て。山。の。ど。津。守。の。浦。よ
君。サ。ち。り。れ。神。モ。く。世。モ。崇。サ
お。陽。サ。と。ぞ。城。ふ。さ。ま。

和章

墨染上
ヨリ書と心入る事多
テ。からぬ
機よ生うよ

風の西國方より

左の傳文。秋葉都をみだる程
ゆく思ひ立當る。眞と心得
機良。ハ重れ塙路とまわ
れも忍耐と竹吸の雲ともがた

奥津船御神也。宿也。お通出で。行く
さきの海。さくら浦。ある。闕。よ。湯て
けり。梅。え。御鄙。ひ。ま。す。り。る
まと。是。成。穢。通。よ。ま。く。み。ま。ば
新。し。車。御。壁。と。立。あ。だ。り
あ。の。ノ。ア。遠。善。と。た。ま。く。く。要
文。移。と。か。ま。す。物。改。平。れ。知。章

とか。れ。ア。知。章。と。か。平。家。ひ。ロ。モ
カ。翠。中。み。く。那。が。み。く。う。ま。す。じ
ゆ。ん。あ。ら。痛。も。や。ぐ。あ。よ。心。傷
き。行。り。と。経。ひ。ぞ。財。見。の。萬。國。よ。り
よ。居。信。み。く。う。が。是。財。車。御。壁。と。み
き。ば。の。御。平。れ。知。章。と。か。お。く。い
御。一。門。ア。四。中。に。く。作。や。弱。と

痛りくくな。一遍の念佛をす。寧
てふ。身を遠國のへきります。勞べ
が病。心ありぬち御。ゆり。筆章とは
相まひ。二男。豹中。印言。忍辱。法子。息
みて。二月七日。八會。死。ころ。一客。又
て。うき。まづりて。か。が。き。ば。其。口。見
は。よ。あ。う。き。永。ば。が。う。き。人の。立

ち。辛。苦。深。か。い。が。も。も。も。も。も。
古。舊。考。
さ。ま。つ。え。寢。よ。ま。う。経。ひ。せ。向。そ。よ
古。舊。考。
トガル
一。樹。の。陰。一。行。志。あ。び。き。
見。よ。他。生。の。縁。成。へ。一。破。く。而。ひ。捨
ひ。く。一。身。作。ひ。と。く。他。生。の。縁。の
あ。き。ぞ。社。被。祀。な。ぶ。ら。寢。よ。ま。う。
テ。神。縁。の。利。益。と。あ。も。事。と。
畢竟。

かよひ教へりて
あやだよ一見率都尊承歎三恩
道がうわうわうわうわうわうわ
物故平此無章成等に覺
き人ちよげの事ともあらぬ方がまう
モカラ馬湯家へあらば法^トひしきつ
佛讐事よりゆくや ウ^ト不^ト念^トいた

だよ^ト二恩の罪消ぬべ^トま
て妙みもと^ト法の道ほ^トりのあ
きぬと^ト縁もち^トかあれまく
極^ト度^トの御^ト室^ト行^トあら勢
給^トひぞ
えある釣舟^トほどあり^ト富^ト志^ト
仲^トの御^ト船^ト舟^ト左^トもからぬて

ノ
木あきぬのや船よめかがへう
シテ
いや馬ホトトギスとみてひり。其比年ハシタニのうへ
黒ハコいふてのまやうれふごたうづ
二十餘町の海シマを面ミテと。鳥ヤスととおよ
さきまつり。鳥ヤスとまくまき。馬ホトトギスやされ
ざくも船中セイキナウに可ハシタニむすり一回イチカウがまめん
もあくしてよ車カミツの行ヒキよねむたあづり

ノ
鷺サシと別アリと見てよとゆほヨモギと
仲シズの方カタに向ムカシいたうゆき。足アシとま
くそぞたのまきれ。畜ナニ類ルイを心ハラに
けあよとからく人ヒト氣ヒトツとせまゆシマユけ。里トカラ
越ツバキ島シマ南枝ミナミは裏ミズ舞ヒメけ。胡アヒ馬ホトトギス小コ風フウ不ハズ
しき。人ヒトえすすススか。打ハシと聲ヒトツか。有アリとか
が馬ホトトギス小コ風フウと見てひげるの面ミツマツよねく

船かも綱つなよほどよほどもゆうがや
とすす心こころありあるよどももやす
てて廻まわららままいいやよ乃の
有ありり無なくくははののせせかかみみ
ささししれれそそもも一一門もんにに

かづづくくるる人ひとかかくくくく
井いみみぐぐれれてもとももむむああれれににめめ
跡あとぬぬきき
登のききばば道みち、
黒くろふふええ野の山さんみみゆゆそそ
田た鷹たかすすくくととすすくく
ううううききももううかかくくりりややううかか

波タヌニりとやまゆううらリヤガ海シマをこう
ある通カヨガ路アツシテ引ヒテうべ山ヒロトコト上野タヌス
あらアラ章カヨガ木キ國ノミコト有アリ傳ハシマツ那ナカニ也モ傳ハシマツ
皆カトミ城佛カヨガ舍スルの傳ハシマツ有アリ出ヒテか
たる方カタマリ郭カヨガかよカヨガかカヨガよやあアリも傳ハシマツ
めメまマたタむムわワきキ者ハシマツ波タヌニうウかカひヒて
刀カタマリ絶カヨガきキくクかカまマまマそ

けカえエくクよヨうウりリ上ア手ハゆユ波タヌニ子チ鳥トリがガ
若カくク可カもモ風カ浦マづヅひ野マ山マ
アアふフもモかカえエくクりリ心ハもモまマ比ヒ衣イ良リたタ
波タヌニ經ヨリとト傳ハシマツ阿アら有アリ波タヌニ及シテ上ア手ハ
猶ヨリ乃オ清シとトらラひヒやヤ無アリ御ミ經ヨリ通スル矣マア
くクれレ三ミ日ヒ隙ヒカケもモうちウチてテセセぞゾうウ。魄マツコト靈マツコトよヨかカれレすスありアリたタつとト浮ハ遊ブるル

紙と皮あらやありあり。御吊りひ
力方が下へる。御章是處にありたり
墨色御身家の公事を。またありたり。竟
せあすよとぼうへて。うら殿上引
かれゆきわらへ。れよ。また藤引
か鑑ヨロシキがえきれやう。耶。の墨
可もあら。頃。ア。うち。わやろ。

ああ。う。の。縫。や。肩。の。毛。く。く。う。つ。は
捨。鳴。の。ま。ま。ぐ。く。く。船。と。と。そ。
ね。よ。我。改。よ。替。う。が。舟。景。の。跡。く。ら
波。え。あ。り。や。舟。と。ま。く。毛。鐘。よ。わ。ぶ
う。う。う。代。良。着。て。と。ひ。く。た。び。詮。く。
單。か。ら。が。毛。か。ま。の。有。模。素。く。豈。よ

う上地

松毛玉前乃有操

がりりへ
かくじつ帝ヨウうた名のミガリ
田代やま若モみぢ塚アヅレ
あ鼻アビクアリカシマザリヒ
あま氣見下アラニ
主山二位殿見下と
もより、其外見下アヒトの父子見下
門皆見下船ヨリ無壁見下アヒ

唯僕假のうねよう近近水鳥トトロだ
中シテ申シテいも親シテシシテ勤シテ中納
言シテ御シテ章シテ盤シテ物シテ大シテ郎シテ主シテ徳シテ二シテ序シテよ
うちシテあシテ御シテ盤シテ物シテ間シテに打シテ
打シテひシテ印シテうちシテあシテ御シテ盤シテ物シテ太シテ郎シテ主シテ徳シテ一シテ序シテよす

隣よ氣度。月二十余余町の所より見え
たる。お臣敵の漁船。馬をねぶる者也。
つしき。日船みたり。アヤハヒアリ。參
拵り。アリモト。知覺を付よ。お臣敵の
御前。アリ。城とあづの経ゆく。或
蘇守をうる。又、盜物を即頃貰も
あり。行かく。うる。お城へ捨て是迄

書より。西日。れそひは。幕也。アリ。成
子の親のため。命とさきまぬ。ひざ。アリ。
す。おれやあきび。アリ。アリ。おれを捨
きし。命をささ。アリ。脚も。アリ。あめ。あ
せ。おれた給へ。人壽の神を。庵より
おほい。もの。アリ。オ蘇守。アリ。
とより。アリ。アリ。も。國。アリ。アリ。アリ。

海とからでぞとも。御子清むじひの方
を、賣りて御殿と流。御船か
中、御船あきる人ども。達が神とぬら
け。小藏守氣章。是年
二月、まきれど、まよ家も同年よ
て、落すわざ。まきねを重
視す。あくや。累々城枝とづらうつ、

一門かどとあるく。もあくへれま
か、いきも。あもほの山櫻。さみ
來吉教ぬ埋め。うそアテヤシ。よ
船人もありゆく。墨ぞ燐。モウケヒ。燐
痛。悔。よが。悔。同。うの御室明辨
ノ方様。とがんまよ。あらウ。

修羅道（シラドウ）。若愚生（シラタマジルシナシ）ましん（シムシン）めた
修羅道（シラドウ）。三昧（サンメイ）の一念も空（スカム）め（スカム）た
より（シテ）ゆくよ。敵（アキ）を（アキ）外（ガク）は
やすか（シテ）れ。浦（ハリ）の波（ハリノモカ）。何（ナニ）の旗（ハタ）の末（エツ）
見（ミ）だま（シテ）す。かわ（カワ）。と。ままで。監物（ケンブツ）。
古郎（コラン）が放（ハナサ）つ矢（ヤ）。敵（アキ）を（アキ）射（セ）り
頭（カヘル）の骨（カツチ）を（カツチ）かきく。豪邁模（カウメイモ）よ

や（ヤ）と。磨（マサニ）きば（シテトシ）室（ムロ）へと。打（タヂ）ま
武（ムサシ）を。新（シン）中（ヂウ）の誓（セイ）言（ギン）を。自（ジ）に。あ（ア）と
さ（サ）を。す。勢（セイ）て。う。敵（アキ）を。親（チヒル）。打（タヂ）せ。ト
と。誓（セイ）言（ギン）を。あ。ま。さ。う。内（ナル）く。も。も。と。そ。ん
て。ど。う。や。む。ち。か。て。お。ま。く。て。頭。免。打（タヂ）せ。ト
撃。打（タヂ）。あ。あ。う。や。み。と。ア。敵。の。郎。お。打（タヂ）。上。元。ス。一
度。章。が。頭。と。打（タヂ）。打（タヂ）。よ。対。

はくうたきつ。お僅、修羅の葉よ
沈むと思ひて御僧ひよらひ
き有翁や。是ぞ城の法もあよご
きそも。知章が跡もひいた
ひ跡がよ。あとと。ひよをかほへ

後城忠度

加様よか志。或藏國の住人。固邦
れ六。は。古忠澄。ま。い。ね。も。今
度西海の人。葬よ。薩守忠度を
ば果う。手。魚。ち。ひ。ア。か。御。寂。妙。の
及矢籠。と。刀。は。き。ば。短。舞。の。四。脚。小
え。足。五。柔。の。三。位。後。城。卿。と。和

教の所值遇由あふ間短冊をお
てまう。後成は背^{オシメ}ふれもやとねい
いふ葉内^{トモ}作^{トモ}。北^{トモ}すわたりを
^早思^{トモ}部^{トモ}かちふた忠^{タマ}がしよりだるす
四^{トモ}十^{トモ}人^{トモ}心^{トモ}のよ^{トモ}いふ。行^{トモ}
よ^{トモ}す有^{トモ}。國^{トモ}部^{トモ}公^{トモ}はなだ忍^{タマ}の所^{トモ}
候申^{トモ}あきてふ。一^{トモ}方^{トモ}へとや^{トモ}へ

日^{トモ}思^{トモ}くいば^{トモ}方^{トモ}へとまうとへ。四^{トモ}ゆ^{トモ}
^後りの思^{トモ}憲^{トモ}徳^{トモ}がよ^{トモ}とぞ^{トモ}爲^{トモ}すあり
候^{トモ}申^{トモ}あきてふ。^早かしほ^{トモ}呉^{トモ}すとあると
和^{トモ}の^{トモ}御^{トモ}よからじ。西^{トモ}海^{トモ}の^{トモ}公^{トモ}難^{トモ}よ薩^{トモ}
广^{トモ}ち忠^{トモ}度^{トモ}を^{トモ}。某^{トモ}が手^{トモ}に^{トモ}あせりひ
ナ^{トモ}て^{トモ}、所^{トモ}窮^{トモ}かづくと^{トモ}あごと^{トモ}えくと^{トモ}べ
短^{トモ}冊^{トモ}の^{トモ}是^{トモ}、繫^{トモ}へ忠^{トモ}度^{トモ}の^{トモ}讀^{トモ}うらぬ

和子乃の置馬の由來ある。御目に
みゆきやとむじよがくえちてよ
りての後け方へ餘りの空やら馬
の通きらねど。いはせてまゆは
置きよりたるトカゲよ。行ヨロジく旅宿トカゲ
ゆ云イフ跡シテ。行ヨロジて来て下トカゲかけを
宿トカゲとまば。かわと霄アツミあら風ハラ。

痛ヒいや患度ヒ。破ハれずん代罪ハ
と若きハ義ヒ利智ヒ信ヒがト道トもたトッ
走ハく。奇ヒ道トよ幸ハ者トありゆタリ矢ハ
急ハ済ハあきゆハ文武ハ一ト道ト。患度ヒの
船ハとまく。被ハ寄ハひ臺ハよトりた海ハ
細ハやく。射ハ也ハと殺ハぬ。思ハりば
うむざん丸ハが雲ハに馳ハせば重ハい壠ハ

詠
詠成一
さかよニテ高
傳も千載集よ一首何
と人を知る所志のうがきれも
讀へあらずとかかへり。心ふくらひ
氣カクもうれり多きあきだち敵の
はるからずかせのまうりふや
此處カル有あらす背ハシみをかれすも乃
乃ナ、御ミうちおねぐわせシテ神ミ

詠
集元
詠成一
始ハまざりうめかれて重ヒヂめまじ
ひきよれた源スル花ハナのゑエども面マスク
やハくらんラム命タメ心ハよかすマむちらムチラ
行ハわう終シテきのうあハくカまカすよ
後ハシシ忠度チウドこそ是シテありてえ
弓ヨウ思儀シギやハ夢ウムうらラたわハあハす
産ハ守ハシメ深シメあらまわハくカゆ

あらうとあらむへ。かたむせきも奇
 あらば後まくふえ流石むチよ
 まがれぬあらう。我人のシテ情多きを傳
 もがみく後トや諒カモ心あら
 かづけ都シテあひゆ。まうあら
 か。山櫻シテすかくもあざれせのほ

元コト、元コト、詠カう。あ。威ル子元
 まれとのシテ詠カう。あ。威ル子元
 ませシテ電テ。胡蝶シテ夢シテみたかふ
 きシテ。う。わ。す。や。律シテ。ふ。れ
 が。よ。波シテ。も。た。か。り。す。や。う。
 ち。せ。絶。よ。あ。う。き。う。う。う。せ。絶。よ。な
 わ。す。そ。う。ア。リ。の。お。義。あり。且。ご
 道。ち。ち。ま。の。神。ち。ち。も。が。ま。神。

代の音。かく。此教もあづめあり。
到後天照大神の御こみうさ。
かく。うき。より三十字。よあづめ。墨。
や。末。末代。たれ。と。其。其。其。
ゆあづ。末。蓋。鳴。き。女。と。末。其。
まし。と。出。雲。國。ア。み。あ。く。様。施。
宮。作。里。か。前。よ。と。美。久。雲。入。草。外。と。
ま。と。神。詠。え。か。あ。あ。か。か。世。
か。き。め。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。我。須。ア。う。ら。
軽。機。宿。そ。あ。あ。や。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ら。れ。ア。
軽。勢。と。よ。久。え。思。可。ら。れ。ア。

代の音。かく。此教もあづめあり。
到後天照大神の御こみうさ。
かく。うき。より三十字。よあづめ。墨。
や。末。末代。たれ。と。其。其。其。
ゆあづ。末。蓋。鳴。き。女。と。末。其。
まし。と。出。雲。國。ア。み。あ。く。様。施。
宮。作。里。か。前。よ。と。美。久。雲。入。草。外。と。
ま。と。神。詠。え。か。あ。あ。か。か。世。
か。き。め。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。我。須。ア。う。ら。
軽。機。宿。そ。あ。あ。や。ゆ。ゆ。ゆ。ら。れ。ア。
軽。勢。と。よ。久。え。思。可。ら。れ。ア。

人磨せよあくありて。チニテハシトモシ
まゆと。絶貴之え躬直もかくこう。
ムカシカモ。松の望むりうみび
まあすづらわく。中元一月
あらん其ほど。おもつとき。あひ
力。奇よ。神も無事。男妓女婦の
嬢とも此すれど。情もよべ。乞うらめ
所廢ざよ修羅王の枕天よ責のぞ
もと。帝釋紫のひ修羅王と。その
下界にあり。も。敵陣をみづれ
あひ。とあるあきづは。忠度も。眞

人磨せよあくありて。チニテハシトモシ
まゆと。絶貴之え躬直もかくこう。
ムカシカモ。松の望むりうみび
まあすづらわく。中元一月
あらん其ほど。おもつとき。あひ
力。奇よ。神も無事。男妓女婦の
嬢とも此すれど。情もよべ。乞うらめ
所廢ざよ修羅王の枕天よ責のぞ
もと。帝釋紫のひ修羅王と。その
下界にあり。も。敵陣をみづれ
あひ。とあるあきづは。忠度も。眞

志乃婚ホウの葬儀ハセイの飯ヒマツのうちわ抜ハサフく
が切カツかきば敵シキ人ヒトを殺スル。氣エモリを拂ハラフく
ま終マツシタだ。忠度チントあひ向アヒタガム。おうらば
そろまみきば敵シキとうのひほすれ
て左シナガび段ゲンすりぬ。火車カツバ降フリだすり
き錢刀チントとつらぬききりもたまび
かゑえみらきの腰ヒダ玉タマれをめ。たゞいた

流フリあ、や
突ヨリ駆アハ方カタり波ハタハタや
突ヨリ都アハのあ行アヒす。よあらむ起アハ
櫛マツガと梵天ボクテン感カク経エドより。劍ソード責シメ
を免マツガれて。ちらゆきと成アハ。火ヒと背アハ
きては。其アヒの腰ヒダ深シミな月ツキ火ヒと背アハ
での同アヒき。小年コハチは喜ハジメる夜ヨメ
やまくと飴マツガれもあり。した

凌空ヨウコウまえぐと。右つあひ山アヒヤマの鶴アヒが
かみカミてうきうはとこがれ
てう勢エイよとる

大正元年八月十五日印刷
年八月二十日發行

同

復 繫 不 許

再訂正者

觀 世 清

發行兼
印 刷 者

京都府上京區二條通麿屋町角

東京市四谷區傳馬町貳丁目

印 刷 所

江 常 之

堂



終

